

C.COM

広島 の 生協

平和とより良き生活のために

JULY.2015 VOL.51

広島県生活協同組合連合会
発行 2015年7月10日



NPT 再検討会議 報告

特集1「平和」

2015 NPT 再検討会議代表団報告 … 1・2

「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い … 3・5

NPT 生協代表団報告・交流会 …… 5・6

特集2 広島県生協連通常総会 …… 7

第1回トップセミナー …… 8

「地域社会づくりに向けた生協の課題」

日本生協連 専務理事 和田寿昭氏

会員だより・トピックス …… 9

・ピースウォーク「因島生協」

・消費者教育の推進（広島県消費生活課）

・「2016 折り鶴カレンダー」

事務局だより …… 10

・理事会報告

・組織委員会報告

・福祉・介護委員会報告

『日々のことから』 …… 11

岡島鉄也氏：中国新聞社常務取締役

・編集室から



前に進まない



私は、被爆者のみなさんの活動を支援すること、世界的な核兵器廃絶の世論高揚のために、2010年NPT再検討会議に引き続き、2015年4月24日(金)から5月1日(金)の期間、日本生協連の2015年NPT再検討会議代表団(副団長)として米国ニューヨークに渡米した。

被爆者の決意

まずは、渡米前の逸話から紹介したい。今回渡米された被爆者のひとりである箕牧さん(広島県北広島町在住)は、2015年3月東京での被爆証言活動の時、「わざわざ広島から東京まで夜行バスに乗ったよ」と聞いた。「どうしてですか。」と聞くと箕牧さんは、「ニューヨークまでのフライトに自分の体力が持つかどうか判断するために。ためしたんよ」と。もう一人の被爆者である中村さん(広島県三原市在住)は、前回(2010年NPT再検討会議)は、何とか自力で歩かれていたが今回は、杖がないと歩行困難であった。4月26日(ニューヨーク時間)には、デモ行進があったが車椅子での行進風景が中国新聞に掲載されていた。今回、平均年齢が80歳近い被爆者にとっては、13時間のフライトとニューヨークでの行事日程は過酷であったに違いない。

なぜそこまでして渡米されたのか……、お二人の証言を聴いたら理解できた。「戦争に加害者も被害者もないんよ」、「あんなむごい歴史は、私らで最後にしてほしい」、「世界の人々に核兵器と人類は共存できない絶対悪の兵器だからね。だからこそ核兵器廃絶を早期に実現してほしいんよ」

と、身を粉にして訴えられているように映り、被爆者の皆さんの決意を感じた。

オールヒロシマでのネットワーク構築

今回の2015年NPT再検討会議では、ニューヨーク訪問に至る経緯でこれまでにない進展が2つあった。

まず、被団協との合同壮行会の開催である。県生協連の主催で両被団協を含む代表団が集い、共にNPT再検討会議の成功を誓いあった。この取り組みは、NHを含む民放各局と各新聞社を含むマスコミも注目してくれた。広島県内では、長年2つの被団協に分断している。そんな中で、オールヒロシマで取り組む平和活動のイメージを市民に伝えたかった。もう一つは、広島市が提唱している平和首長会議とのコラボの実現である。昨年、広島市(広島平和文化センター)との交渉を重ね、日本生協連代表団として正式にニューヨークで平和首長会議が主催する集会への参加が実現できたことである。具体的には、ニューヨーク時間の4月27日、岸田外務大臣も参加した「ヒロシマ・ナガサキアピール集会」に本田団長以下、14名の代表団が出席した。冒頭あいさつで松井市長からは、日本被団協、日本生協連が会議に参加していることへの感謝を報告された。個人的には、これまで時間を費やし調整してきたことが、その一言で満足した瞬間であった。また、日本生協連本田団長(コーフこうべ組合長)が、核兵器廃絶に向けて生協が取り組んでいる活動について報告したことは、おそらくN

PPT再検討会議関連では初めてであろう。会議のまとめであるヒロシマ・ナガサキアピールでは、NPT再検討会議では、70年の節目の年に、国境を越えて核兵器を廃絶しないといけない。国家間対立を盾に議論を先延ばしにするのではなく、法的禁止(核兵器禁止条約の締結)にむけて以下の3つをアピール声明として参加者によって採択した。

- ①核保有国の首長は被爆地を訪問すること。
- ②今後の核軍縮交渉では、核兵器の非人道性について理解すること。
- ③第6条のつとり、誠実に交渉を開始すること。

この3つのアピール声明は、広島県生協連としても賛同する内容である。こうした取り組みが、オールヒロシマ・オールジャパンとしての取り組みにつながっていくと確信した瞬間でもあった。

各国政府代表へのロビー外交

今回、各国政府への要請行動は、前回より行動数は増えたものの、ほとんどが国連のロビーまたはカフェの一角で行われる非公式要請行動であった。いわゆるロビー外交である。私は、フランス政府代表とニュージーランド政府代表を担当した。4月28日(ニューヨーク時間)午前中、ニュージーランド政府代表(国連代表)と交渉した。ニュージーランド政府から与えられた時間はわずか5分、場所は渡り廊下である。私は、「ラストサムライという映画のロケ地はニュージーランドで行われた。最後のサムライを描いたものだ。今回、平均年齢が80歳近い被爆者は、私たちのラストジェネレーションである。

被爆者の皆さんが御存命であるうちに核兵器を廃絶することに力を貸してほしい」と要請書を手渡した。尚、この交渉には、広島県代表団(12班)が同行し、再生紙折り紙をニュージーランド政府代表に手渡した。

4月29日(ニューヨーク時間)、フランス政府代表とは、国連本部のカフェテリアで交渉を行った。前日同様に短時間で交渉と思っていたが、意外にフランス政府代表との要請行動は1時間を超え、しかも丁寧に対応してくれた。私は、「フランスでは、日本のコミック本が人気であると聞いた。ドラゴンボールという人気漫画がある。ドラゴンボールを集めれば願いが叶う。被爆者と私たちの願いは核兵器の廃絶である。」と要請書を手渡した。フランス政府代表は、現実問題として「ステップバイステップ」段階的な核軍縮で核兵器の削減をしていくと返答された。「いつまで待てばいいのか」、「もう70年も私たちは待ち続けている」と被団協の田中事務局長が迫った。確かにフランスは、核兵器工場の閉鎖や今以上に核兵器を作らないことを国内法で定めている。そしてフランスは、核兵器の先制使用はしない。それが抑止の考えである。と、それに私が嘸みついた。「抑止とは、脅しではないか」フランス政府代表は、脅しではないと否定し、核兵器を持っていない国への攻撃はしないと付け加えた。理解に苦しむやりとりがあったが誠意は感じる交渉であった。

ほかにもアメリカ・日本・イギリスなど各国政府代表と交渉した皆さんから聞くと、共通している言葉が「聞き上手」という言葉であった。短

2015NPT 再検討会議代表団報告

あきらめては

広島県生活協同組合連合会 専務理事

高田 公喜



時間でも、うなずき真摯に聞く姿勢を持っていた、と。

新たなリスクと並行して核兵器の使用リスクが高まっている

世界では、新たな紛争（ウクライナ、イスラム国等）と並行して核兵器の使用リスクが高まっている。抑止の考え方は、歴史的に見ても長く続く考え方ではない。欧米を中心とした世界のパワーバランスが損なわれる可能性が高くなってきているからだ。つまり、核兵器を持っている国は、相互確証破壊（MAD）を誘発し、人類存亡の危機をまねく恐れが高い。また、核の管理そのものへのリスクも必要となる。そうならないために、私たちは、非人道性の破壊兵器である核兵器を直ちになくす努力を求めていかなければならない。

世界のNGOと連携して核廃絶を

2015年NPT再検討会議の前に、国際平和地球会議（Peace & Planet）が主催した2つのイベントに参加した。1つは、「核のない平和で公正で持続可能な世界をめざす

国際平和地球会議」である。ニューヨーク市内のクーパーユニオン大学で4月25日に開催され約6000人が参加していた。日本生協連からは、本田団長、和田副団長、岩永副団長、笹川事務局長、そして高田が参加した。午前中のセッションでは、マーシャル諸島トニー・デブルム外務大臣、スコットランドビル・キッド国会議員など6名が登壇しそれぞれの国の取り組みと課題を報告した。特に印象的だったのは、マーシャル諸島トニー・デブルム外務大臣の報告である。「マーシャル諸島は、核兵器廃絶の最前線である。わずか5万人の島民が「核兵器を国際法違反であると国際司法裁判所に提訴している。」この「最前線」であるという意識を日本政府が持つべきである」と報告を聞きながら思った。世界では、私たちが願う核兵器廃絶を、勇気をもって列強大国に對しものを言う人たちがいる。

4月26日には、行われたデモ行進（ラリー）に参加した。当日は、広島市松井市長や小溝広島平和文化センター理事長と笑顔で握手を交わし、共にデモ行進に参加した。デモ参加者は、2010年時の半分以下の7千500人が行進した。デモ行進は、国連近くの広場まで約2時間余りだった。デモ行進後、国連近くの公園内に設けられたステージでは、松井市長が、「核兵器禁止条約の交渉開始を求める署名」109万7059人分の署名を、再検討会議のタウス議長に手渡した。この瞬間こそ、この数年全国の生協が取り組んだ成果であり、私たちの思いである。同席していたケイン国

連軍縮上級代表は、「被爆者の思い、そして核兵器なき世界の実現へ、トーチを引き継がないといけない」と応じた、地元中国新聞は報道していた。

未来を託す学生たちとの交流

今回ニューヨークでは、地元中国新聞とのコラボレーションもあった。再検討会議の取材のために中国新聞が派遣したジュニアライター（2人の高校生）と、その引率兼務で取材に来た記者との交流は嬉しい出来事であった。中国新聞は、我々（日本生協連と被団協）が企画するニューヨークの学校や教会などで行なった被爆証言などに同行取材し、地元の高校生らとも交流を深めていた。また、岸田外務大臣への高校生の単独インタビューでは、「日本は、被爆国なのに米国の『核の傘』の中にいるのは矛盾があるのではないか」と尋ねるなど鋭い質問をしていた。

未来を担う子供たちが、純真無垢に活動する姿は、大人を動かす力になると確信した。



フランス代表団との交渉

書素案が配布された。核兵器の非合法化や核保有国のリーダーが広島・長崎訪問することなどこれまで私たちが活動してきた内容も盛り込まれている。ただ、核保有国と非保有国との溝は深く、非人道性を理由に核兵器の違法化に言及できるかどうか焦点であった。人類共通の課題である核兵器廃絶へのシナリオを、あえて国家間の歴史問題を政治利用していることは解せない。

NPT再検討会議「決裂」は非常に残念。あきらめない平和活動を今後も

5月31日、地元中国新聞によると、NPTが決裂した背景は、非核保有国が核保有国の核軍縮の遅さしびれを切らして法的禁止を迫り、それが先鋭化したという分析だ。核保有国は、「核兵器禁止条約の締結は、世界の安定を危険にさらす。段階的な核軍縮以外に選択肢はない」と意見をまとめてしまった。そして、決定打は、中東問題であった。事実上の核保有国イスラエルを念頭に中東の非核化に向けてエジプトが提案したことに、アメリカとイギリスが対抗してこれも棚上げとなった。保有国は、非保有国からとやかく言われたくない。という意思が随所に見られ、この会議の不平等性をあらわにした形で議長提案の最終文書案は、大きく後退した形となり、非核保有国からはこれなら合意しない方がいいという意見等が出て、結果は決裂した。

しかし、人類共存の課題である核兵器廃絶は、あきらめでは前に進まない。

市民の集い

「戦争も核兵器もない平和な世界を」



来賓を代表して祝辞を述べる和田寿昭日生協専務理事



来賓を代表して祝辞を述べる湯崎英彦広島県知事



開会の挨拶をする岡村信秀広島県生協連会長



広島・長崎に原爆が投下されて70年の節目になる今年、奇しくも2015年核不拡散条約（NPT）再検討会議が、4月27日から5月22日までニューヨークの国連本部で開かれました。

これまで、私たちがヒロシマから核兵器廃絶を目指してメッセージを発信し続けて来たにもかかわらずNPT再検討会議は、合意文章の発表に到らず、課題を持ち越したまま終会を迎えました。

このNPT再検討会議に参加した松井広島市長と広島からの代表団メンバーより、現地の様子や活動の報告を中心にした「市民の集い」が6月5日、広島市中区J Aビルに於いて開催されました。

オープニングを飾る虹のコーラスの合唱が終わるとともに、司会の発言によって、市民の集いが始まりました。来賓を代表して湯崎英彦広島県知事、日本生活協同組合連合会和田寿昭専務理事の祝辞に続いて、出席者紹介、続いて、湯崎知事とともにNPT再検討会議に向いた松井広島市長の「特別講演」。再検討会議出席の詳細な報告が松井市長の言葉と映像によってなされました。

松井広島市長の報告（特別講演）

つめかけた報道各社



2015年NPT再検討会議出席の報告が松井広島一貫市長からなされました。

松井市長はまず、NPT再検討会議の概要と内容について説明。核をめぐる世界の状況と核軍縮の進まない理由、核軍縮の歴史的流れと、国家間の相互不信、核が国防上・軍事上の最大の武器であること、核が他国に対する強い脅しになることに触れます。又、核保有が対立する国家間の核使用の抑止になるという考えが、核軍縮が進まない理由に挙げます。

そして、広島市が提唱して1982年に設立された「平和首長会議」が、これからの核軍縮に於いて主要な役割を果たすことを示唆します。2015年のNPT再検討会議では、松井市長は平和首長会議の会長として、さまざまな問題に取り組んだことを報告しました。

一番の成果は、「核兵器禁止条約」の交渉開始等を求める市民署名約110万筆をアンゲラ・ケイン国連軍縮担当上級代表とタウス・フェルーキNPT再検討会議議長に手渡したことです。この署名には、全国の生協をはじめ多くの関係者の協力があったことが出来たと、松井市長は「ご協力、本当にあ

りがとうございました」という言葉を添えて感謝の意を表しました。

また、松井市長はNPT再検討会議NGOセッションでのスピーチで、核兵器の非人道的で「絶対悪」を強く訴え、国家間の対立やテロ行為が核軍縮交渉の進展を阻んでいると強調しました。そして世界の為政者に、今こそ核廃絶に向けリーダーシップを発揮して、一刻も早く核兵器禁止条約に関する交渉を始めるよう訴えたことを報告。さらに、今回のNPT再検討会議での様々な取り組みを紹介し、取り組みの総括を核兵器禁止条約の早期交渉開始等への訴え、政府高官等への政治的リーダーシップの発揮を強く要請し、被爆地のメッセージを対外的に強く発信したことを強調しました。

最後に、松井市長はNPT再検討会議の成果と課題で、最終文書が採択されなかったこと、多くの国々の間に自らも核兵器の被害者と成り得るといふ当事者意識が広がったことと言及。そして、広島市のこれからの平和への取り組みと役割を「守り」、「広め」、「伝える」という言葉で象徴し、NPT再検討会議の報告を終えました。

市民の集い NPT 生協代表団報告・交流会

リレートーク & 6団体アピール



上田久子さん



小林卓也さん



佐久間邦彦さん



箕牧智之さんの報告



中奥岳生実行委員の閉会挨拶

閉会挨拶



市民6団体アピールを読む戸田真紀さん

6団体アピール

満足を感じた様子でした。

松井広島市長の報告の後、同じくNPT再検討会議でヒロシマの思いを訴えるために渡米した4人の方の「リレートーク」が開かれました。広島県原爆被害者団体協議会の箕牧智之さんと佐久間邦彦さん、広島大学消費生活協同組合小林卓也さん、最後に生活協同組合ひろしまの上田久子さんが、ニューヨークでの自分たちの活動と出来事を臨場感あふれる語り口で紹介しました。4人は、被爆地ヒロシマからの熱い思いとメッセージを心置きなく伝えられたことに満足を感じた様子でした。

【生協代表団の活動報告からの抜粋】

◎さまざまな場所での証言活動等から、老若男女問わず認識の高さを実感 ◎被団協の方達が、全身全霊でつらい体験をお話されるのが言葉が通じなくても心に残ったと感じました ◎向こうの子供達が被爆者の話を涙を流して聞き入っていたこと、時間をオーバーする程の質問が続いたことに驚きました ◎被爆者の方の「ずっとアメリカを憎んでいた。でも憎んでばかりいても何も変わらない」という言葉が印象的 ◎「恐らく私たちが被爆者の方から被爆証言を聞ける最後の世代に、だからもっと多くの人に◎被爆者の姿を知ってほしい、被害が今日まで続いているのを知れば人間は必ず解決方向を見出せる ◎向こうの高校生が本当に熱心に質問して来て被爆者の方と真剣にやり取りしているのが印象的でした ◎被爆者の「ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ、ノーモア・ウォー」の叫びを聞いて鳥肌が立ちました ◎今回の代表団との会談で、核保有国の発言に対して、どう核廃絶を訴えればよいのかを考えるきっかけになりました◎若い人達が参加しやすい場をつくって行くことが大事では

◎もっと事前準備をしておけばよかった ◎デモ行進では、現地で暮らしている人々にも伝わっているなど感じる場面が多々ありました ◎オーストリア政府代表の核軍縮にける前向きな姿勢に強い感銘を受けました ◎被爆者の体験談を聞くという大切さ尊さを私自身実感 ◎私たち一人一人に出来ることやるべきことがある ◎原爆の恐ろしさは知っていたつもりですが、被爆者の訴えを聞いて想像以上に恐ろしいものだということが解りました ◎被爆者の方々の様々な活動を支えてくださった通訳の方に頭が下がりました ◎年齢差のある人達へのそれぞれの場面での証言活動はとても重要で意義のあるものでした ◎原点は被爆の話

NPT 生協代表団活動報告・交流会
私の感想と思い

市民の集いの午後には、同じ会場で、全国のNPT生協代表団の活動報告会が、日本生協連と広島県生協連の主催で開催されました。

90名の参加者が13のグループに分かれて交流し、各グループからの発表で全体交流しました。発表者の表情と主な発言内容をご紹介します。



NPT 生協代表団報告・交流会

私の感想と思い



ピースアクション in ヒロシマ 継承と創造 ～被爆 70 年、そして未来へ～

毎年広島では 8 月 4～6 日の 3 日間、平和について学び想いを広げる活動を「ピースアクション」と総称し取り組んでいます。8 月 5 日には全国から広島に平和の想いを持ち寄り交流する「虹のひろば」を開催し、被爆者からのメッセージ、次世代を担う若者のメッセージなど、さまざまな角度から平和を考え交流します。今年は、舟入高校演劇部のみなさんが被爆劇『広島戦災児育成所「童心寺」物語』を通して、平和のメッセージを発信します。誰でも自由に出入りしていただける集いです！平和について少しの時間、考えてみませんか？是非、お気軽にご参加ください。お待ちしております。

虹のひろば

■日時：2015 年 8 月 5 日（水）
13：10～16：20（開場 12：30）

■会場：広島県立総合体育館グリーンアリーナ（入場無料）

■主催：日本生協連 / 広島県生協連
第 1 部 虹のステージ

・被爆ヴァイオリンと被爆ピアノの演奏

・被爆者、次世代を担う若者から平和のリレーメッセージ

第 2 部 みんなのひろば

・さまざまな角度から平和を考え、交流するテーマ別コーナーなど

第 3 部 フィナーレ



舟入高校演劇部による「童心寺」物語



全国から参加した子どもたちとの交流の様子（昨年）

・虹の合唱団の歌と朗読で平和の大切さを伝えます。

子ども平和会議

全国から参加する子どもたちが、事前に自分たちの住む地域から平和について学び、考え、それを自分たちの言葉で伝え合い、交流します。会議の最後に平和のアピール文を採択し、虹のひろばで発表します。

ピースナイター 2015

生協ひろしまでは、今年もマツダスタジアムにおいて、平和への願いと核兵器廃絶をアピールする取組み、「ピースナイター 2015」を開催します。

●日時：8 月 5 日（水）

18：00 試合開始

広島東洋カープ VS 阪神タイガース
8 回目となる今年は、世界で活躍された広島出身のバレリーナの森下洋子さんに始球式をしていただきます。是非、ご観戦いただき、5 回裏終了時には、スタジアムをピースポスターで緑色に染めましょう！

広島県生協連通常総会・トップセミナー

2015年度通常総会



広島県生協連 2015 年通常総会

6月24日（水）、2015年度広島県生活協同組合連合会通常総会が、広島市中区メルパルクにおいて開かれました。

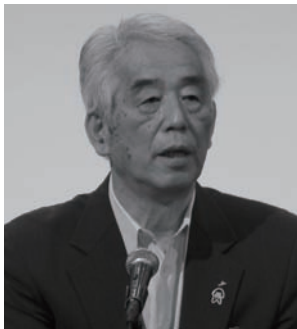
午後1時、来賓、役員、代議員及び関係各位がそろい、岡野龍広常務理事の開会挨拶後、議長の小会進行によって総会議長が選出されました。議長に選出された広島医療生協部長本浦孝典氏が議長席に着き、書記に森島哲司氏（生協ひろしま課長）を指名しました。

まず、岡村信秀会長理事の挨拶、続いて来賓を代表して森永智絵広島県環境局長、香川洋之助広島県農業協同組合中央会会長、和田寿昭日本生活協同組合連合会専務理事が祝辞を述べられました。その後、来賓の紹介が行われ来賓が退場して、通常総会が始まりました。

通常総会は、高田公喜専務理事によって、第1号議案（2014年度活動報告ならびに決算報告・剰余金処分案承認の件）、特別報告（2015年NPT再検討会議報告）、2号議案（2015年度活動方針ならびに収支予算決定の件）が提



日本生活協同組合連合会和田専務理事



広島県農業協同組合中央会香川会長



森永広島県環境県民局長



岡村会長理事

広島県生活協同組合連合会 2015 年度役員体制

役 職	名 前	所属生協・役職
代表理事会長	岡村 信秀	(非常勤)
代表理事専務	高田 公喜	(常勤)
常務理事	難波 隆宏	広島県学校生活協同組合 専務理事
常務理事	盛谷 博文	広島中央保健生活協同組合 専務理事
常務理事	岡野 龍広	日立造船因島生活協同組合 常勤顧問
常務理事	横山 弘成	生活協同組合ひろしま 専務理事
常務理事	岡 勝行	広島県労働者共済生活協同組合 専務理事
理 事	近江 和子	広島中央保健生活協同組合 副理事長
理 事	金築 英司	グリーンコープ生活協同組合ひろしま 専務理事
理 事	斉藤 孝司	広島医療生活協同組合 専務理事
理 事	高橋 幸博	広島県高等学校生活協同組合 専務理事
理 事	武田 孝治	竹原生活協同組合 理事長
理 事	乃美 康志	福山医療生活協同組合 専務理事
理 事	吉山 功一	広島大学消費生活協同組合 専務理事
理 事	長谷川英男	広島修道大学生生活協同組合 専務理事
理 事	戸田 真紀	生活協同組合ひろしま 理事
理 事	門田 陽子	生活協同組合ひろしま 理事
監 事	花田 俊哉	広島医療生活協同組合 常務理事
監 事	堀道 琢也	生活協同組合連合会コープ中国四国事業連合 専務理事

※広島県労働者共済生活協同組合専務理事の岡勝行氏は、同生協が7月30日に開催する総代会にて承認される予定です。



退任する役員に感謝状を贈呈



特別報告をする高田専務理事

案され、小泉信司監事から監査報告がなされました。

続いて、横山弘成常務理事から第3号議案（役員選任の件）、難波隆宏常務理事より第4号議案（役員報酬決定の件）が提案され、質疑応答に。質疑応答では、三名の代議員の方からの発言があり、それが終わって、総会は議長によって採決に入りました。

第1号議案に始まって、第4号議案まで、挙手による採決は、何れも全会一致で可決され、無事通常総会は終了しました。

最後に、岡村会長理事から3名の退任役員に対して感謝状が贈られました。その後、盛谷博文常務理事の開会の挨拶で、2015年度通常総会のすべてが滞りなく終了しました。

広島県生協連通常総会・トップセミナー

第1回トップセミナー

日本生活協同組合連合会専務理事

和田寿昭氏



【和田寿昭氏 略歴】大学卒業後、大学生協に入協。東京大学生協、新潟大学生協、大学生協東京事業連合を経て、1996年から東京大学生協に異動し、その後専務理事に就任。2003年に全国大学生生活協同組合連合会の専務理事に就任。2011年9月に日本生活協同組合連合会に異動し、2013年6月運営・組織を担当する専務理事に就任し、現在に至る。



2015年度広島県生活協同組合連合会通常総会を記念して開催された「トップセミナー」、講師は、日本生活協同組合連合会和田寿昭専務理事です。

和田専務は、今日のセミナーの内容を、①2015年度全国生協の重点課題、②地域社会づくりへの参加、③地域包括ケアシステムと生協の課題、④NPT再検討会議を受け、今後の生協の課題、⑤世界の協同組合の動向と日本の役割、という5項目を掲げました。

続いて、和田専務は、今日私達がおかれている状況、戦後70年の節目・阪神大震災から20年、東日本大震災から丸4年・安全保障法案、集団的自衛権行使容認の議論の進展・円安の進行と食品、公共料金の値上げ・2016年開始予定のマイナンバー制導入等の課題を提示して、セミナーが具体的に始まりました。

和田専務は、まず、「2015年度全国生協重点課題」について、これまでの生協の取り組み

と今後の生協の活動を紹介し、生協の「変わらない原則」を改めて強調し、ラブコップキャンペーンによって生協組合員を200万人に増加させることを提示しました。

そして、今後生協が「地域社会づくり」にどうかかわって行くかという2020ビジョンを、現代進行中の事例をもとに紹介します。続いて、「地域包括ケアシステムと生協の課題」

についても説明しました。その上で、NPT再検討会議と今後の生協の平和活動を2015年NPT再検討会議での生協組合員の活動を紹介し、今後のあり方を示唆しました。

最後に、和田専務は、もう一度生協の原則に立ち返るために、「世界の協同組合運動の動向」を紹介し、今後生協が地域とどうかかわるかを、示唆し、セミナーを終了しました。



消費者教育・ピースウォーク・折り鶴カレンダー発売

消費者教育の推進に係る意見交換会を開催

広島県生協連が事務局を務める広島県消費者団体連絡協議会（以下、広島県消団連）は、5月26日、広島県（環境県民局消費生活課）が主催した、消費者教育の推進に係る意見交換会に出席した。

広島県からは、坂井浩明県民生活部長、山根多美子消費生活課課長他5名が出席。参加団体は、広島県消団連構成団体（広島県生協連、広島消費者協会、呉市消費者協議会、J A広島県女性組織協議会、消費者ネット広島）他、広島県社会福祉協議会、広島弁護士会、広島司法書士会、広島県金融広報委員会が出席して意見交換会が開催された。

広島県から消費者基本計画（第2次）の説明の後、参加団体から消費者教育に係る活動報告、質疑応答を行った。

主な内容は、消費生活課が今年度取り組みを推進する学校での消費者被害防止に関する教育について、情報交流を中心に進め、学校への出前教育に長年取り組んでいる広島司法書士会、広島県金融広報委員会から、具体的内容や進め方などの説明があった。学校への出前教育は、生協はじめ広島県消団連は、今後力を入れていきたい分野である。

地域で消費者教育を取り組むには、行政や地域社協との連携、消費者ネット広島やJ A等のネットワークを使って取り組むことが大切であり、広島県にもご協力と、ご指導をいただきながら、消費者基本計画を推進する取り組みを進めていく。

日立造船因島生協

ユニセフラブウォーク因島

開催日 5月10日（日）

場所 尾道市重井西港駐車

場 除虫菊畑

日立造船因島生協は5月10日、ユニセフ募金活動ラブウォーク因島を開催しました。ラブウォークは尾道市重井西港から除虫菊畑を往復、当日は天候にも恵まれ35名（子ども4名含む）が参加し、楽しい時間を過ごしました。ここ因島は、蚊取り線香の原料となる除虫菊の産地として全国的に知られた所でしたが、電子蚊取り器や噴霧式殺虫剤などの進出により、昔馴染みの渦巻蚊取り線香は衰退してしまつたため、今では島の斜面に観光用として数ヶ所残っているだけです。除虫菊が懐かし、参加した皆さんは、昔話に花を咲かせていました。除虫菊畑から見る港の景色も素晴らしい、皆で感激しました。当日は1万6315円の募金が集まりました。募金は、4月25日に発生したネパール大地震緊急支援金としてユニセフへ送ります。日立造船因島生協では、各店舗にユニセフの募金箱を設置していますのでご協力をお願いします。



除虫菊畑から見える景色は最高！



除虫菊畑



ユニセフラブウォーク出発！

平和の折り鶴が2016年カレンダーに

コープCSネット、広島県生協連、生協ひろしまは、広島市が進めている「平和の折り鶴昇華再生事業」に取り組んでいます。毎年、広島平和記念公園内の「原爆の子の像」には、国内外から一千万羽（約10t）の平和の折り鶴が寄贈されます。

平和の折り鶴昇華再生事業は、平和への思いが込められた折り鶴を、再生原料としてカレンダーや折紙、ノート等に商品化する事業です。

2016年カレンダーは2種類。3ヶ月メモカレンダー（600円税別）、女流画家森田りえ子作品集（700円税別）を9月より販売開始します。平和への祈りが込められたカレンダーの購入にご協力をお願いいたします。お問い合わせは、広島県生協連まで。



理事会報告 組織委員会報告 福祉・介護委員会報告

2015年度第5回理事会報告

■日時

2015年4月17日（金）

■場所

広島県生協連3階会議室

■出席

理事16名中11名出席
監事3名中2名出席

（出席理事）岡村、高田、盛谷、岡野、難波、横山、上田、川本、吉山、武田、近江

（出席監事）花田、堀

□議決事項

以下の項目について資料に基づき提案説明を行い、全員異議なく承認決定した。

（第1号議案）2015年度通常総会上程議案と当日運営について

（第2号議案）広島県生協連賛助会員制度の導入と日本労働者協同組合（ワーカーズコップ）連合会センター事業団中四国事業本部の賛助会員加入について

（第3号議案）広島県内の医療・購買生協事業連帯推進と2015年度広島県生協連体制及び特別会費について

（第4号議案）他団体の公職承認の件について

1 広島県消費生活審議会への派遣

2 広島県共同募金会配分委員会への派遣

（第5号議案）2015年度「けんこうチャレンジ」実施について

（第6号議案）協賛広告依頼及

び後援名義使用依頼について

1 「未来につなぐヒロシマ平和祈念コンサート」協賛広告について

2 被爆70年平和祈念公演 音楽劇「チンチン電車と女学生」後援について

3 協同労働シンポジウム「みんなが主役の働き方」後援名義使用について

□協議・報告事項

各事項について資料に基づき説明を行い、協議の結果、全事項について確認した。

（第7号議案）平和関連活動について

1 2015「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民のつどいの開催について

2 2015ピースアクション「ヒロシマ実行委員会報告」（第8号議案）一般活動報告

1 研修報告（トップケーススタディ研修、2015年度初級職員研修会）

2 各委員会活動報告（組織委員会、福祉・介護委員会等）

3 広島県協同組合連絡協議会（HJC）協同組合学習会の開催報告

4 2月～3月活動日誌

5 中四国地連ニュースレター

6 2015年NPT再検討会議について（生協代表団ニュース第3号）

2015年度 第2回組織平和委員会報告

■日時

2015年6月18日（木）

■場所

広島県生協連3階会議室

■出席

越智（日立造船因島、佃（広島県学校）、山根（広島医療）、宮澤（福山医療）、上田、戸田、森島（ひろしま）、豊村（広島県労済）、高田、福島、為政（広島県生協連）

【主な内容】

1 2015年度組織平和委員会活動方針について福島事務局長より、資料に基づき2015年度組織平和委員会活動方針について報告があった。

2 2015年度平和活動方針と平和活動について福島事務局長、為政事務局より、資料に基づき2015年度平和活動方針と次の項目について説明があり、協議をおこなった。

(1) 2015年度平和活動方針

(2) 2015年NPT再検討会議代表団報告

代表団として派遣された、高田専務理事、戸田委員、森島委員より報告があった。

(3) 2015戦争も核兵器もない平和な世界を市民の集い報告

市民の集いに参加した委員から、補足説明及び報告があった。

(4) 2015ピースアクション「ヒロシマについて

2015年度 第1回福祉・介護委員会報告

(5) 2015市民平和行進について

3 一般活動報告

(1) 2015年度通常総会及びトップセミナーの運営等について

(2) 2015年度「けんこうチャレンジ」実施案内

山根委員、宮澤委員より、案内パンフレットに基づき説明があった。

2015年度 第1回福祉・介護委員会報告

■日時

2015年5月11日（月）

■場所

広島県生協連3階会議室

■出席

盛谷（広島中央保健）、斉藤、本浦、山本（広島医療）、岡（ひろしま）、高田、岡崎、為政（広島県生協連）

【主な内容】

1 2015年度の福祉・介護委員会の役割と運営計画について

2 2015年度の広島県生協連の福祉、介護分野の取り組み計画

(1) 2015年度の取組計画と経営分析について

(2) 生協の地域包括ケアの取組みについて

3 2015介護保険・報酬改定への対応状況と今後の課題

(1) 広島市高齢福祉課他への訪問報告

(2) 広島市との懇談会について

4 各生協の事業状況報告、交流



信じたい活字媒体の底力 「SELECT」で新たな挑戦

日々のことから

中国新聞社常務取締役
編集・論説担当

岡島 鉄也

おかはた てつや

●プロフィール
1956年生まれ。79年、中国新聞社入社。呉支社、東京支社勤務、人事部長、販売局長、営業本部長を経て現職。被爆50年報道で新聞協会賞受賞。著書に「検証ヒロシマ1945—1995」（共著、中国新聞社）がある。

「今日を、二倍、豊かに」というキャッチコピーを掲げ、中国新聞社は5月1日、新媒体「SELECT」を創刊した。朝刊と一緒に届けられる、文字通り第二朝刊であり、活字媒体の良さを二倍味わっていただきたいの思いを込めた。まだ、評価を下す段階ではないが、おかげさまで読者の反応もよく、責任者としてひとまず胸をなで下している。

失敗は許されない。夕刊を休刊し、その代りに発行する媒体である。地域の信頼と先人の魂が詰まった九十一年の歴史に一応のピリオドを打つわけで、夕刊以上の媒体を提供し、地域や先人に納得していただくこと。それが私たちに課せられた使命なのである。

休刊反対の声は社内でも少なからずあった。しかしながら、新聞を取り巻く環境は、それを許さぬほど厳しさを増す。少子高齢化、若者の活字離れ、インターネット：全国で発行される日刊紙は、一年に約百万部が減少している。その影響は、新聞社もさることながら新聞販売所の経営を直撃している。

手をこまねいていれば、廃業する販売所が相次ぎ、新聞の生命線である戸別配達網が維持できなくなる。各社ともてこ入れに躍起だが、なかなか展望が開

けない。窮余の一策として夕刊を廃止する新聞社も相次ぐようになった。

実は本紙も十年近く前から夕刊の廃止を検討していた。というのも、本紙の場合、朝刊六十二万部に対して夕刊は三万部である。夕刊は全国紙を含めどの社も苦戦しているとはいえず、朝夕刊を一セットと考えるなら、セツト割れの割合が極めて高い。私が入社した頃から幾度となく紙面改革を試みたが、うまくいかなかった。

結局、消費増税が引き金となった。しかし、いざ夕刊を休刊するとなると、様々な懸念が湧いてくる。報道機関としての責任、地域の受け止め、社内の反応：矛盾するようだが、中国新聞社の経営自体は悪くはない。あくまで販売所の経営改善が目的である。休刊を後退と捉えられない術はないか。難解な方程式は、経営首脳の間で逆転の発想で一気に解けた。

「新媒体を発行し、朝刊と同時送できないか」。朝刊と一緒に届けるのだから、あらたな配達員を確保する必要はなく、販売所の経営改善に資する。あらたな媒体を発行するのだから後退ではない。厚い雲から一筋の光が差し込んだ。

どんな媒体にするか。本紙はカープタイムズ、ちゅーピーこ

ども新聞、CUEと様々なタイプの新聞を発行している。議論の末、朝刊同送だから朝刊を補完する媒体ができないか。いわば朝刊の「おかわり」である。

地方紙はページ数に制限がある中、地域ニュースに紙幅を割かざるを得ず、国際や経済ニュースが割を食う。その弱点を補うと同時に、深掘したニュースをじっくり読んでもらいたい。全国の地方紙の名物記事を掲載するのも面白い：などなど欲張るとページ数は夕刊をはるかに超え、十六ページにもなった。



読者からは「読むところが多過ぎる」とのご指摘もいただくが、「読むところがない」とお叱りを受けていた夕刊の代替物としては、褒め言葉として受け止めている。レイアウトなど大胆に、これまでにない新聞をと、スタッフのモチベーションも高い。業界も注目している。活字文化の底力を信じ、「SELECT」の挑戦は始まったばかりだ。

【編集室から】

一般に広報誌の原稿は、文章・写真・図表・データで構成されるが、この原稿を作成時、様々な困難が伴う。発行日時が確定している広報誌制作で一番大事なことは「締め切りを守る」事である。それが守れないと、決められた期日には発行出来なくなるのだ。▼原稿づくりで難しいのは、やはり、記事の要となる「文章作成」であろう。担当が作成する場合を除き、第三者に原稿を依頼する場合、期日までに原稿を出せる人は大体十人に一人、殆どの人は締め切りを守ることが出来ない。それだけ、文章を書くことが難しいということでもある。▼新聞記者の間では、下書きの文章を作成したら最低7回は推敲する、ということを活字で目にしたことがある。文章制作のプロでもだ。作家の司馬遼太郎氏は、文章作成に於いて、「文章の目的は、意を達することにある。その成否は『品格』にある」ということを言っている。「思っていることを伝える」だけでも苦勞なのに、「品格」を求められる。編集担当の苦悩と苦勞は続く…。(Y)

平和とよりよき生活をめざして



広島県生活協同組合連合会

〒730-0802 広島市中区本川町2-6-11
第7ウエノヤビル5F
TEL 082-532-1300 FAX 082-232-8100
E-mail: kenren.h@proof.ocn.ne.jp
URL: http://hiroshima.kenren-coop.jp